

【栄区】令和4年第2回区づくり推進横浜市議員会議議事録

開催日時	令和4年6月8日（水） 午後3時30分～午後4時30分
場 所	栄区役所新館4階8・9号会議室
出席者	<p>【座長】大桑正貴議員</p> <p>【議員：2名】輿石且子議員、長谷川えつこ議員</p> <p>【栄区：30名】富士田学区長、今仁知宏副区長、 横森喜久美福祉保健センター長、 井上弘毅福祉保健センター担当部長 櫻井暁人土木事務所長 ほか関係職員</p>
議 題	<p>1 令和4年度個性ある区づくり推進費予算について</p> <p>2 会議報告書作成について</p>
発言の旨	<p>(説明省略)</p> <p>長谷川議員：栄区商店街活性化推進事業に関連して、横浜市でレシ活チャレンジが開催されることになったが、栄区の飲食店でもぜひ参加していただきたいと思っている。前回の参加店舗実績が分かれば教えていただきたい。</p> <p>近堂地域振興課長：レシ活の第2弾が8月頃から始まると聞いている。県のホームページ上で公開している感染防止対策取組書の登録事業者が対象になり得る店舗であるが、前回実施されていた時期には栄区の飲食店関係が120店ほど登録されていたかと思う。</p> <p>長谷川議員：SC自殺予防対策分科会に関連して、区内の自殺の状況を伺いたい。</p> <p>齋藤福祉保健課長：令和2年の栄区の状況では男性が7名、女性が7名、合計14名の方が自殺で亡くなっている。</p> <p>長谷川議員：自殺に至る背景はそれぞれなのかもしれないが、家庭での事情が大きく関係しているのではと思う。できるだけ未然に防いでいくために、区としてひきこもりやヤングケアラーなどの把握をしているのか。</p> <p>和田子ども家庭支援課長：区内のひきこもりやヤングケアラーの実数については把握していない。4月から健康福祉局にひきこもり支援課が設置されている。ひきこもり相談があった際は、どういったサービスを提供できるか、ひきこもり支援課と連携して福祉保健セ</p>

ンター各課で対応していく。ヤングケアラーについては、区民対応をしている中でそういった世帯があることは確認しているが、実数は把握していない。

長谷川議員：本当に大変な問題で、並大抵の努力では把握できないと思うが、できるだけ早期の発見を目指していただきたい。

さかえの食と農を育む事業について、栄区内の農家が様々な農作物を生産していると思うが、区として実施している区民に向けた販売促進の取組は。

藤澤区政推進課長：地産地消キャンペーンを実施している。栄区の地産の農作物あるいはそれを使った食材を購入すると付与されるスタンプを集めて応募すると、抽選で景品が当たるという取組。

長谷川議員：生活道路における交通事故の未然防止事業について、データを分析し、その結果を公表するとあるが、公表した結果、今後どういった方向で整備を行っていくかと考えているのか。

藤澤区政推進課長：データ分析については、道路局と情報共有しながら進めていく。区の取組としては、幹線道路利用に結びつけるような形で、サインの工夫等を進めていきたい。

長谷川議員：幹線道路への誘導につながる取組はありがたい。区外ではあるが、道路に車線分離標が設置されて、歩行者が安全に歩けるような整備が進んでいる。子どもたちが歩くような環境については、ぜひ積極的に危険箇所を把握していただきたい。

また、資源化推進事業に関連して、鶴見区で廃油の回収事業を行っている。原油価格が高騰しているので、ぜひ栄区でも廃油を回収して、バイオディーゼル燃料への転換や新たなエネルギーの利活用を検討していただきたい。また、以前から取り組んでいる「ミニ・キューロ」の普及促進により、生ごみ収集量が減量につながっているのか。

内田資源化推進担当課長：「ミニ・キューロ」普及啓発については令和2年度に開始して255基、令和3年度は130基の販売実績となっており、今年度もまた栄区民へ販売助成を実施して導入を推進していきたい。導入戸数が約300～400戸であり、顕著な生ごみの減量にはつながっていないものの、個々の家庭で協力していただいている。

また、廃油の活用について、10年ほど前に資源循環局で収集車

を動かしていたが、臭いの問題や精製コストに課題があり実験としては終了している。

長谷川議員：「ミニ・キエーロ」の普及が生ごみの減量につながってほしい。

議題外であるが、ホテル観賞を目的にした路上駐車が増えている。何か対策は考えているのか。

藤澤区政推進課長：土木事務所等とは情報共有しているが具体的な駐車対策等は行っていない。

伏見総務課長：14～15年前にホテル観察のマナー啓発、観察地域周辺の車のマナーを含めてボランティアの育成事業に取り組んだことがある。数年経過するとボランティアが減少した。観察者が多いので難しい問題ではある。今後の対応になるが紹介させていただく。

大桑座長：警察と連携して引き続きよろしくお願ひしたい。

興石議員：栄区の特徴である自然や住環境、みんなの支え合い、防災力、地域とのつながりに特化した考え方で予算編成をしていることと思う。感染症の拡大により、栄区の特徴である地域のつながりや助け合いの状況に変化が生じ、事業やイベントができていない状況になっている。栄区の特徴を区外に効果的に発信するためにも公共施設の再編整備を見据えて空間づくりを進めていくべきであると思うが、今の状況を踏まえて区長はどのような課題認識をされているのか。

富士田区長：予算編成のプロセスから説明させていただくと、4年度予算の編成は感染症が最も蔓延していた時期でイベントや事業等の実施の可否、実施するためには何をすべきかという観点で検討してきた。現時点ではある程度方向性は見えてきて、中止という選択肢はない中でどのように実施していくのか、従前のやり方でのいいのかという視点を持って検討している。感染症拡大前の状況に戻ることが本当に良いのかどうか、さらにつながりを深めるためにはどうすべきかということも含めて考えていきたい。今後計画内容に変更が生じることがあるかもしれないが、その際にはしっかりお伝えさせていただく。

また、栄区の魅力を区外に発信するという点については、例えばさかえ・森の魅力づくり推進事業のように、栄区ならではの、

栄区の特徴であるものをいかに発信するか、区民の方たちが住みやすいと実感でき誇りを持てるように何をすべきかという観点から事業を組み立てて発信したいという視点を持っている。本郷台駅周辺のまちづくり事業については、しっかりと局と連携して、伝えるべきことは伝えて進めていきたい。

興石議員：本郷台駅周辺をPRするタイミングでもある。個性ある区づくり推進費を活用して感染症というピンチをチャンスに変えていく時期であると思う。

執行残となった予算を、区民を元気づけるようなものに使えないか。5月に「横浜市立学校 熱中症対策ガイドライン」が改訂され、横浜市教育委員会から、熱中症などの健康被害が発生する可能性が高いと判断した場合はマスクを外すよう指導をしてください、という通知が学校に発出されているにもかかわらず、現場を見に行くとまだ外せていない。大人が外さないから子供も外せない。熱中症で倒れたりする子も出ている。「深呼吸をしよう、栄区」とか、「きずなを取り戻そう、栄区」のような標語が必要なのではないか。

富士田区長：本日の会議についてもどういう形式で実施すべきか非常に悩んで判断しており、今はそういうプロセスの過渡期であると思う。学校現場ではなおさらではないか。熱中症の問題もあるのでしっかり見極めながら、現場の状況にあわせて進めていくべきと考える。

興石議員：栄の歴史・文化事業について、刊行物の販売や歴史案内パネルの修繕が挙げられているが、2005年発行の地図「栄区歴史散策マップ」が SAKAESTA で発売されていて、区外から来た人がそれを持って歩いたら迷子になってしまったという声も聞こえてきた。ペーパーレス時代の中で紙媒体のものがいいかどうかも含めて、魅力発信についてどのように考えているのか。

近堂地域振興課長：歴史冊子などは作成してからかなり時間が経過しており、その内容については改めて今年度点検する予定にしている。マップについても現状を確認し、普及媒体なども考慮して修正につなげていきたい。

興石議員：熱心に研究している区民の方もたくさんいらっしゃるなので、ぜひ声をかけて一緒に作成するというようなことができると良い。

セーフコミュニティ推進事業について、認証期間満了後の取組について、そのレガシーをどうするのかとか、例えば「栄区誕生から 40 周年を目指して」というような、大きな目標は検討されているのか。

富士田区長：セーフコミュニティの再認証を取得しないということで皆さんにご理解いただいで進めてきた中で、連合町内会長や地域の皆様から「今までやってきた 10 年間のレガシーとか、区役所と地域の方たちのつながり、そういった協働の部分はしっかり受け継いでください」というお話を伺ってきた。当然のことであると思うし、今我々はどういう形がいいのかということをしつかりと考えているところ。ありとあらゆるところで情報収集しながら、しっかりとレガシーを残しながらどのように展開していくべきかを考えている。

興石議員：先ほども話題に上った自殺者について、栄区の自殺者数は増えているのか。

齋藤福祉保健課長：令和元年は全体で 22 名、令和 2 年が 14 名であり、減少傾向ではあるが、令和 3 年、4 年と、社会情勢が厳しくなっており改めて調べていきたいと思う。

興石議員：栄区社会福祉協議会が主催したフードパントリーでは、かなりの長蛇の列ができて、大変助かったというような声が聞こえてきた。フードパントリーについては区も協力したのか。

近堂地域振興課長：日頃からフードドライブの取組により、区役所地域振興課で区民の皆さんからご提供いただいた食料品をとりまとめて、栄区社会福祉協議会を通じて必要とする方々に還元している。

興石議員：参加者を対象にアンケートを実施しているか。

近堂地域振興課長：栄区社会福祉協議会でご意見を伺っていると聞いている。

興石議員：先ほどのひきこもりやヤングケアラーの情報把握についても、こういった場にカウンセラーとか課題に気づきやすい人がいて参加者に声かけするとか、アンケートやご意見から吸い上げるといったような細やかな対応があってもよいのではと思う。

本郷台駅周辺のまちづくり推進について、区局連携で進めていくとのことなので、区局が連携するプラットフォームづくりをぜ

ひ栄区がハンドリングするように進めていただきたい。

郊外住宅地の住環境保全と持続可能なまちづくりの推進について、空家の未然防止相談会の状況を伺いたい。

藤澤区政推進課長：空家相談会については、建築局で開催実績があるが、栄区においては、高齢者世帯あるいは独居高齢者が多いことから、お盆と暮れの、ご家族が戻ってきた時期に事前に相談できるような独自の相談会を開催する予定。

輿石議員：区づくり連絡調整費とはどういうものか。

伏見総務課長：予算編成時期には把握できない区民要望等に迅速に対応するために臨時的な事業を実施できるよう計上している。

輿石議員：花いっぱい魅力づくりの里帰り桜に関連して、大々的にアンケートを実施して、平成 29 年に栄区の木がサクラとカツラに選定されたが、いま一つ認知度が低く活用しきれていないのではないか。

藤澤区政推進課長：先日終了したオープンガーデンのパンフレットへの記載、ホームページ等での情報更新を行っているがご指摘を踏まえて検討していきたい。

大桑座長：セーフコミュニティの後継事業検討について、予算額が大きいので、地域や区民の方とのつながりを活かしながらしっかりと検討していただきたい。

本郷台駅周辺のまちづくり推進については、個性ある区づくり推進費に加えて区局連携促進事業でも財政局、建築局や都市整備局としっかりと連携しながら進めていただきたい。本郷台駅前の国家公務員住宅跡地の再開発の際には、区長を筆頭に連合町内会長や地域の皆さんが集まって会議をした記憶がある。区民の皆さんの意見をどのように聞いていくのか、集約するのか、ぜひとも検討していただき、関係局ともしっかりと連携していただきたい。

また、公共施設等の新設・改廃に伴うまちづくりの検討に関連して、庄戸であるとか、環状南線についても橋脚が建ってきているので、動き出すようであれば情報提供していただきたい。

スクールゾーン対策事業に関連して、以前にも伝えているが、環状 3 号線が開通して戸塚の国道 1 号までつながり、制限速度が 30km/h から 50km/h となった。信号を守れば大きな問題はないと思うが、それなりにスピードが出てしまうので、近隣の小学

校・中学校の方には校長会やPTAの会合の際に「青になってもすぐ渡らない」、「右左を見て渡る」というような基本的な交通ルールを守るよう、ぜひとも伝えていただきたい。

ICT利活用推進事業について、進捗内容について聞きたい。

伏見総務課長：本館1階のエントランスなどに市民向けのWi-Fiを整備し、職員のICT活用推進として外部とのWEB会議環境も整備した。本館4階にWEB会議専用のブースも2つ設けている。3年度内で整備が終わっていて、今後はランニングコストが発生する。市民向けのWi-Fiについては、本館での利用状況を確認しながら使用場所の範囲拡大も含めた検討を想定している。

大桑座長：職員の皆さんがICTを利活用して効率的な働き方を進めつつ、こどもや高齢者など人手がかかる部分にはしっかりと対応していただきたい。

1階待合フロア環境改善事業について、どのような改善を行うのか。

伏見総務課長：昨年度はマルチコピー機等を設置し、本館1階エントランス部分の環境改善のためレイアウト変更を行った。今年度は個性ある区づくり推進費とは別に予算を確保し、マイナンバーの受付窓口が増えることを想定して、戸籍課や保険年金課の部分もレイアウト変更することを予定している。

大桑座長：栄区民ロードレース大会、栄区民スポーツフェスティバル、区民まつりなど、ぜひとも実施できるように、できる範囲で、できるやり方をお願いしたい。スクールゾーン対策協議会についても、協議会が対面形式なのか書面開催なのかわからないが、地域の方も含めて保護者の方が会する意味はあると思う。毎回対面が良いのかということも含めて、ぜひとも検討していただきたい。

全体を通して、何か発言はあるか。

藤澤区政推進課長：地域交通利便性向上事業について、説明させていただきたい。バス事業者が設置する上屋に対する補助事業であり、上限170万円で事業額の2分の1を補助する。昨年度の予算額も同額で、バス事業者や地域の負担額を合わせて、350万円程度の事業経費だった。

興石議員：次世代交流ステーション運営事業について、個性ある区づくり推進費だけではなく局からの予算も配分されていると思うがど

	<p>の程度か。青少年の居場所として予算を増額すべきではと考えているのだが。</p> <p>近堂地域振興課長：次世代交流ステーション自体はいろいろな局から委託や補助という手法で事業を行っている。青少年の地域活動拠点については、400万程度の補助額だと認識している。</p> <p>興石議員：フレンズ☆SAKAEに400万程度の補助ということだが、局配付予算はランニングコスト等に充てられていると思う。個性ある区づくり推進費はもう少し柔軟に栄区のニーズにあった使い方というように区別して使えるようにならないか。</p> <p>富士田区長：各事業の金額は後ほどご説明するとして、局から配付される予算を取りまとめて区から渡しているが、それだけではニーズに対応しきれず、個性ある区づくり推進費に計上している。局配付予算を増額するように局に伝えていかなければならない。それでも難しい場合は個性ある区づくり推進費に計上して執行することになる。</p> <p>興石議員：栄区として、教育や子育てしやすい環境づくりを全面的に支えていけたらと思うので引き続きよろしくお願ひしたい。</p> <p>大桑座長：では、次世代交流ステーション運営事業については、後ほど資料をお渡ししたい。ほかにご発言がないようであれば本件については以上となる。</p> <p style="text-align: center;">会議報告書の作成については座長一任。了承</p>
備 考	